

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	立教大学				
取 組 名 称	ビジネス・リーダーシップ・プログラム				
取組学部等	経営学部 経営学科				
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A11135	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申 請 の 分 類	専 門 基 礎	初 年 次 教 育		F D ・ S D	
キ ー ワ ー ド	ビジネス・リーダーシップ, 課題解決プロジェクト, 専門科目の自己主導的学習スタイル, 「内省」と「フィードバック」, FD活動の一環				

<選定理由>

本取組は、学生のキャリア形成における「ビジネス・リーダーシップの涵養」を通じて「新たなビジネス人材を育成」を目的とするものである。このプログラムは、「身近な社会現象・社会問題」との接点を作り、次第にチームでビジネス課題の解決にあたり、それを通じて、ビジネスにおける緊張感やチームでの支え合い、個人の力を超えた課題発見や企画、コミュニケーション・プレゼンテーション能力を高めようとするもので、優れた組み立てになっているといえる。

特に、学生自身による「プロジェクトの振り返り」「グループ・エクササイズ」「自己総括」の三点から構成される「内省」を位置づけていること、それを「言語化・文章化」によって定着させようとしている点、これに対して教員が適切な「フィードバック」を行うとしている点、さらに「スチューデント・アシスタント」を配置して「ピア・メンタリング」を進めている点は、他の大学にとってのモデルになりうる。

ただし、この過程の実行は容易でないと考えられる。それだけに、「内省」や「言語化・文章化」「フィードバック」「ピア・メンタリング」ガイドラインの作成や「プロジェクト発表会」等の内部での実質的な評価を踏まえた更新、対外的な公表、外部の人々との意見交換等が期待される。そのためにも、学部教授会を中心として丁寧で日常的な合意形成努力が求められる。

また、「ビジネス」の範囲について、商業的なビジネスと市民社会・地域社会等の非商業的ビジネスとの関連を検討することにより、学生の視野をより広げることが期待される。

取組の概要【1ページ以内】

立教大学経営学部は2006年度に開設して以来、「異文化環境のなかでグローバルなビジネスを営みながら、自己実現と社会貢献を同時に行える人材の育成」を教育目標に掲げ、これからの企業組織において求められる「ビジョンを示し他人を巻き込んでいく力」すなわち「ビジネス・リーダーシップ」の養成に取り組んでいる。

本取組「ビジネス・リーダーシップ・プログラム(BLP)」は、学生のキャリア形成への不安や資格志向や実学への漠然としたニーズを踏まえ、学部初年次からのビジネス・リーダーシップの涵養を通じた新たなビジネス人材を育成する学部コア・カリキュラムの一つである。

BLPでは、まず、学生が他人や社会に積極的に関わろうとする姿勢を身に付けることを目指す。入学後すぐ典型的なビジネス課題解決プロジェクトを行わせるのではなく、身近な社会現象・社会問題(例:牛乳の消費低迷、大学近隣地域商店街の活性化等)との接点を広く与える。

次に、学生がビジネス・リーダーシップを体験的かつ段階的に身に付けることを目指す。BLPでは、1年次後期から3年次前期にわたり、教育効果を意図した環境設定の中でチームでビジネス課題の解決に当たらせる。学生は「顧客・納期・競合他者(社)の存在」という緊迫した状況に置かれながらも、チームの同僚と支えあって、個人の力を超えた課題発見力や企画提案力、コミュニケーションとプレゼンテーション力を手に入れる。

さらに、学生が経営学部専門科目の自己主導的学習スタイルを身につけることを目指す。BLP教員チームは、学生へのフィードバックや専門科目教員との連携を通じて、専門科目の知識がビジネス課題の発見・解決に必ず結び付いていることを学生が強く認識するように、環境を設定する。立教大学経営学部では「マーケティング」「組織マネジメント」「経営情報」「経営と社会」の4分野について豊富に科目展開を行っているが、学生は、これら専門科目の知識の有用性を味わって、専門科目の履修を自らデザインし必要な知識を主体的に習得する。

学生は、BLP及び各専門科目の成果を踏まえ、「BLPインターンシップ」「国内外インターンシップ」「卒業研究」を経てビジネス・リーダーシップを修得する。

BLPは単なるプロジェクト型授業なのではなく、むしろその特徴はプロジェクト期間中とその後の「内省(reflection)」と「フィードバック」によってビジネス・リーダーシップと専門知識を育て、さらにそれが定着したかどうかを次のプロジェクトで本人と教員が確認できるというスパイラル型の構造にある。また、BLP各科目は共通の教材とシラバスを利用した同時開講授業であり、それ自体が学部FD活動の一環である。学生に対するソーシャルサポートが充実している点も特徴として挙げられよう。

本取組における評価指標としては、(1)授業への満足度、(2)授業内容の理解度、(3)学生行動の変容の3点を設定している。評価を取組に反映させる体制は既に確立している。

今後は、内省・フィードバックや評価結果等に関するデータベース構築を通じて学生のビジネス・リーダーシップ定着度を時系列に記録・分析できる「ビジネス・リーダーシップ・ポートフォリオ」を整備する予定である。